

【目的】

本研究では、日本の総合型クラブとドイツのクラブでボランティア活動をしている人の個人的属性、ボランティア活動の相違点を明らかにするとともに、日本のクラブにおけるボランティア活動者の継続的な活動に必要な条件を明らかにする事を目的とした。

【方法】

日本の総合型クラブとドイツのクラブでボランティア活動を行っている人に対し、質問紙調査を実施した。日本 77 名、ドイツ 83 名から回答を得た。

【結果】

日本のクラブボランティア活動をする人は、女性で中高年、職業は主婦である人が行う傾向にあった。一方、ドイツは、老若男女関わらず、ボランティア活動を行っており、その多くは、家族もクラブに所属していた。スポーツ・ボランティアをする目的、ボランティア観は、クラブの設立経緯が影響していることが示唆された。日本の総合型クラブにおいて、ボランティア活動継続条件は男女差や資格の有無によって異なり、クラブの所属年数が長くなるとクラブのスタッフ、指導者の質の高さを求める傾向があった。

【結論】

今回の調査では、日本とドイツにおけるクラブボランティアには相違点と類似点がある事が明らかになった。また、クラブの設立経緯がスポーツ・ボランティアをする目的などに影響していることも明らかになった。今後、総合型クラブが継続的な運営をしていくために、行政との関係の見直し、質の高いスタッフ育成への取り組みが必要である。